

## 「タレンツ・トーキョー2021」の実施及び公開プログラムの取材のご案内

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、映画分野の人材育成事業「タレンツ・トーキョー2021」を以下の通り開催します。昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の状況を踏まえ、オンラインで実施します。ご取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### ■開催趣旨

本事業は、映画監督やプロデューサーを目指すアジアの参加者（以下タレンツ）に、世界で活躍していくためのノウハウや国際的なネットワークを構築する機会を提供することを目的としています。映画監督、プロデューサー、ワールド・セールスの各部門において世界で活躍するプロフェッショナルを講師陣として迎え、講義やプレゼンテーションを通じて参加者の育成を図ります。また、タレンツ同士や講師との交流、さらには、同時開催される映画祭「東京フィルメックス」に集まる映画監督たちとの交流により、タレンツが国際的なネットワークを新たに築くことを目指しています。

※「タレンツ・トーキョー2021」のメイン講師及び参加者については、別紙1をご参照ください。

### ■開催概要

期 日：令和3（2021）年11月1日（月）から11月6日（土）まで

※「第22回東京フィルメックス」開催期間中の6日間

実施方法：講師・タレンツともに各国からオンライン参加

参加者：映画監督、プロデューサーを目指すアジアの若者15名

主 催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、  
タレンツ・トーキョー実行委員会（東京フィルメックス）

提 携：ベルリナーレ・タレンツ（ベルリン国際映画祭）

協 力：ゲーテ・インスティトゥート／東京ドイツ文化センター



タレンツ・トーキョー2020の様子

### ■主なプログラム

11月1日～3日及び5日～6日 講義、グループディスカッション等（非公開）

11月4日（木）15:30～16:30 オープン・キャンパス（公開）

11月4日（木）17:00～20:00 公開プレゼンテーション（公開）

11月6日（土）19:30～20:00 授賞式及び閉会式（公開）

※公開プレゼンテーションの結果、最も優秀な企画を表彰致します。

※公開プログラムの詳細及び取材については、別紙2をご参照ください。

<「タレンツ・トーキョー2021」に関する問い合わせ先>

タレンツ・トーキョー実行委員会事務局

TEL：03-6382-6459

Email：[talents@talents-tokyo.jp](mailto:talents@talents-tokyo.jp)

ホームページ：<https://talents-tokyo.jp>



<取材に関する問い合わせ先>

生活文化局文化振興部文化事業課 安田・田島 電話 03-5320-7658 内線 29-450

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 糸園・圓城寺 電話 03-6256-8432

※参加者向け（非公開）講義を行う講師のご案内

## 「タレンツ・トーキョー 2021」 メイン講師



（左から、ペンエーグ・ラッタナルアーン氏、アーミ・レイ・カカニンディン氏、イザベル・グラシャン氏）

### ペンエーグ・ラッタナルアーン（監督）

タイ、バンコク生まれ。1997年、それまでのタイ映画の型を破った長編映画『Fun Bar Karaoke』で監督デビュー。1990年代後半～2000年代初期のタイ映画界ニューウェーブのパイオニアとして知られる。

『Sixty-nine シックスティナイン』（1999）、『わすれな歌』（2001）、『地球で最後のふたり』（2003）、『ヘッドショット』（2011）の4作品は米アカデミー賞外国語映画賞部門に正式出品された。数々の作品が世界のメジャーな映画祭で上映され、各国で配給されている。

### アーミ・レイ・カカニンディン（プロデューサー）

国際共同プロダクションを手がけるフィリピン出身のプロデューサー。アジア・フィルム・アカデミー、ベルリナーレ・タレンツ、タレンツ・トーキョーの修了生。直近では、アリックス・アイン・アルンパク監督（TT2015 修了）によるフィリピンの麻薬撲滅運動に関するドキュメンタリー作品『アスワン』（2019/NMSP2017 受賞）を手がけた。同作は、アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭 FIPRESCI 賞、DMZ 国際ドキュメンタリー映画祭最高賞を受賞し、米アカデミー賞ドキュメンタリー部門の対象になった。また、ドキュメンタリー映画としては68年のフィリピンアカデミー賞史上初となる最優秀作品賞を受賞した。

最新作は、台風ヨランダについて描いたカルロ・フランシスコ・マナタド監督（TT2018 修了）の初長編作品『Whether the Weather is Fine』（2021）で、ロカルノ国際映画祭で若手審査員賞を受賞した他、トロント国際映画祭でも上映されている。同作は、フィリピン、フランス、シンガポールとインドネシアによる共同制作で、仏国立映画センターAide Aux Cinema du Monde、ベルリン国際映画祭 World Cinema Fund、スイス Vision Sud Est、プサン国際映画祭 Asian Cinema Fund から助成、タレンツ・トーキョーのネクスト・マスターズ・サポート・プログラムからは2度支援を受けている。

写真：© Sophia Labayen

## イザベル・グラシャン (ワールド・セールス)

フランスのテレビ局、Canal+でジャーナリストとしてキャリアをスタートさせた後、1998年から2003年まで在中国フランス大使館で視聴覚担当を務める。その後、ワン・シャオシュアイ監督の中国映画『青紅～Shanghai Dreams』をエグゼクティブ・プロデューサーとして製作し、2005年カンヌ国際映画祭審査員賞を受賞。以降、フランスと中国の初共同作品『我 11』(2012)などのワン・シャオシュアイ監督作品に参加する他、リー・ユウ、ルー・チュアン、ロウ・イエなどの監督作品を手がける。香港拠点の制作会社 CHINESE SHADOWS とフランス拠点の SHASHA & CO PRODUCTION をそれぞれ設立。CHINESE SHADOWS と SHASHA&CO PRODUCTION の代表作に、ワン・ビン監督作品『三姉妹 雲南の子』(2012/ベネチア国際映画祭オリゾンティ部門グランプリ)、ワン・シャオシュアイ監督のドキュメンタリー『Chinese Portrait』(2018/釜山国際映画祭)、モーリー・スリヤ監督の『マルリナの明日』(2017/東京フィルメックス最優秀作品賞)などがある。他には、アジアの作品を世に広げるためにワールド・セールス会社 ASIAN SHADOWS を立ち上げる。ASIAN SHADOWS の代表作には、ウェイン・ワン監督の『カミング・ホーム・アゲイン』(2019)やチェン・グァン監督の『Shen Kong』(2021/ベネチア国際映画祭ベニス・デイズ部門オープニング)などがある。フランスと中国との共同製作における功績に対して、フランス文化省から芸術文化勲章シュバリエを授与。現在はユニフランス中国支局長も務める。

また、今回のプログラムにはベルリン国際映画祭(ベルリナーレ・タレント)より、フロリアン・ウエグホルン氏(プログラム・マネージャー)、クリスティーネ・トロストルム(プロジェクト・マネージャー)も参加いたします。

## 公開プログラム登壇者

### レイモンド・パッターウィラクーン

9 か月間の集中脚本プログラム、東南アジア・フィクション・フィルム・ラボ(SEAFIC)のエグゼクティブ・ディレクター。

プロデューサーとして、ペンエーグ・ラッタナルアーン監督の2作品『HEADSHOT』(2011/ベルリン国際映画祭パノラマ部門)、『サムイの歌』(2017/ベネチア国際映画祭ベニス・デイズ部門オープニング)やブー・ユンファン監督の『見習い』

(2016/カンヌ国際映画祭ある視点部門)など多くの国際共同制作を手掛ける。国際映画祭においては、トロント国際映画祭とトロント・リールアジア国際映画祭のインターナショナル・プログラマー、香港国際映画祭とカンヌ国際映画祭批評家週間のプログラム・コンサルタントの他、ベルリン国際映画祭やシアトル国際映画祭など数々の国際映画祭の審査員を歴任した。また、国際セールス・エージェントのフォルテシモ・フィルムでマーケティングや特別プロジェクト・ディレクターとして活躍した他、香港アジア・フィルム・ファイナンス・フォーラム(HAF)委員、アジア・フィルム・アワード・アカデミーによるアジア・フィルム・アワードのアドバイザー・メンバーの経験を持つ。



## 「タレンツ・トーキョー2021」 参加者（タレンツ）

### 監督：

GUO Rongfei（中国）  
Riar Rizaldi（インドネシア）  
木村あさぎ（日本）  
山下つぼみ（日本）  
Minji KANG（韓国）  
KIM Jiyoung（韓国）  
Zaw Zaw Leono（ミャンマー）  
Arvin BELARMINO（フィリピン）  
Rafael Manuel（フィリピン）  
Russell MORTON（シンガポール）  
CHAO Hsuan（台湾）  
Ratchapoom BOONBUNCHACHOKE（タイ）  
Primrin PUARAT（タイ）  
TRAN Thanh Huy（ベトナム）

### プロデューサー：

Clarissa ZHANG（中国）

### \*氏名（国名／地域名）

\*タレンツ名は国名／地域名のアルファベット順で表示しています。

### 【参考】タレンツ・トーキョー修了生の主な実績（カッコ内は参加年）

- ・アンソニー・チェン（2010年）監督  
『イロイロ めくもりの記憶』カンヌ国際映画祭カメラ・ドール（最優秀新人監督賞）他多数
- ・石川慶（2011年）監督  
『愚行録』ベネチア国際映画祭オリゾンティ部門出品、『蜜蜂と遠雷』毎日映画コンクール作品賞他多数
- ・ビアンカ・バルブエナ（2012年）プロデューサー  
『痛ましき謎への子守唄』（ラヴ・ディアス監督）ベルリン国際映画祭銀熊賞（アルフレッド・バウアー賞）
- ・ヨー・シュウホァ（2015年）監督  
『幻土』ロカルノ国際映画祭金豹賞（最優秀作品賞）受賞、東京フィルメックス・コンペティション部門出品、米アカデミー賞シンガポール代表他多数
- ・小田香（2015年）監督  
『セノータ』芸術選奨文部科学大臣新人賞他多数
- ・ニアン・カヴィッチ（2016年）監督  
『White Building』ベネチア国際映画祭オリゾンティ部門出品他多数

## 【「タレンツ・トーキョー2021」公開プログラム取材のご案内】

## 1 視聴・取材申込方法

2の公開プログラムについて、視聴・取材を希望される場合は、「4 取材における留意事項」にご同意の上、**令和3年11月2日（火）正午**までに、申込フォームよりお申し込みください。

<https://forms.gle/bwxdHGeQHfMVwMek8>



ご登録いただいたメールアドレス宛に、当日配信するFacebook Live及びYouTubeの視聴方法をお送りします（当日お昼頃の予定）。

各プログラムとも開始時刻の15分前より入室できます。プログラム開催中の入退室は自由です。

## 2 公開プログラム概要

**(1) 11月4日（木）15：30－16：30 オープン・キャンパス**

「東アジアと東南アジアの映画共同制作」をテーマに、講義を行います。  
登壇者：レイモンド・パッターウィラクーン氏【日本語同時通訳あり】

**(2) 11月4日（木）17：00－20：00 公開プレゼンテーション**

タレンツが映画業界関係者に対して、自身の企画のプレゼンテーションを行います。  
【日本語同時通訳あり】

**(3) 11月6日（土）19：30－20：00 授賞式及び閉会式**

公開プレゼンテーションを行った企画のうち、優秀な企画1点を表彰します。  
【日本語逐次通訳あり】

※各プログラムは限定公開のFacebook Live（英語）、YouTube（日本語同時通訳）にてご覧いただけます。（どなたでもご覧いただけますが、視聴には申込が必要です。）

## 3 撮影について

- (1) すべてのプログラムにつきまして、録音・録画・スクリーンショット等撮影はご遠慮ください。著作権及び営業秘密保護のため、ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。
- (2) 公開プログラム（「オープン・キャンパス」、「公開プレゼンテーション」、「授賞式及び閉会式」）につきましては、事務局より映像、スチール画像、音声素材を終了後に提供致します。ご希望の方は、申込フォームへご記入ください。
- (3) 非公開プログラムについては、事務局からスチール画像の提供が可能ですのでご相談ください。

## 4 取材における留意事項

- (1) 企画の著作権及び営業秘密保護のため、視聴方法を他者にお伝えすることはお控えください。
- (2) 講師やタレンツへ個別取材をご希望される場合は、タレンツ・トーキョー実行委員会事務局へメール（[talents@talents-tokyo.jp](mailto:talents@talents-tokyo.jp)）にてご相談ください。
- (3) プログラムの内容は変更になる場合がありますので、ご了承ください。